

建築文化賞

環境に配慮した建築物

建築環境教育拠点のモデル

建築主：学校法人日本大学

設計：株式会社日本設計

施工：大成建設株式会社 千葉支店

所在地：船橋市習志野台7-24-1

日本大学理工学部船橋校舎14号館



広場に南面する北棟共用スペース

日本大学理工学部船橋キャンパスでは、これまでも意欲的な大学施設建築の建設に取り組み、数々の成果を上げてきた。今回応募され審査の対象となった14号館は、「地球環境時代の持続可能な社会の構築に資する建築」を主なテーマに掲げている。視覚的にもユニークな制振システムの採用とともに、パッシブデザインを基調とする様々な環境共生技術が総合的に計画・導入された。

その代表的な建築要素はガラスシャフトによるソーラーチムニーやクール・ウォームチューブをはじめとする、温熱環境を自然換気や地熱によって快適にコントロールできる省エネルギー



ソーラーチムニー頂部



自然光を取り込む開放的な教室

型のシステムである。その他の太陽光発電装置やアクティブ型の設備システムも多数導入され、見方によっては、現在利用できる環境制御技術のデパートのような観もないわけではない。

しかし、建築を学ぶ学生たちは講義や製図の作業を繰り返す日常の中で、同時に整備された中庭のような「センター広場」と

呼応し、居ながらにしてその仕組みや効果が体験できる。しかも、高質な仕上がりを見せる総合的な建築環境は高く評価できる。また、教育施設としての空間構成にも新しい魅力的な試みが数多く試みられ、環境技術と一体化された空間やシステムは、決して生煮えの技術が単に付加されただけの建築ではないことを実感させてくれる。

今後、教育や研究の一環としてこの建物の事後検証を重ねる過程で、さらなる発見と知見の充実につながる成果を期待したい。建築文化賞に値する力作であるとの評価が審査員の大勢を占めた(岩村和夫)。

(撮影/三輪晃久写真研究所)